

大野木グラウンドワークだより

平成 21 年 9 月 23 日 発行 NO 36 発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

9 月 20 日 晴れ 連休初日とあってみなさん何かとお忙しくなされている様子でして、営農の初摺り、百か日法要、敬老行事等々がかさなり参加者は少数でスタート、でも結果 18 名に。本日のメニューとして 10/20 の中学生体験準備として作業台を作ることに。

倉庫を確認しましたらさすが伊藤さんインパクト、リールを運んでいただいており電気をつないで段取り OK。

中嶋さんに見本をお借りし勝巳さんが寸法取り、線引き、丸のこで裁断して微調整のうえ折りたたみ式の作業台が三台完成いたしました。で今日は稔さんが応援に来てくれて大助かり、

それから、あまりに暗い森の整理を若干、少し枝を整理、枯れ木を伐採、それだけで随分明るくなった感じ、次回に中学生にがんばってもらうことに。

お昼は「栗ご飯」ゴーヤ、鳥、イカ、かきあげのてんぷらをはじめ秋茄子のみそでんがく、モロヘイヤのおひたし、芋煮、十六ささぎの和え物、里芋の味噌汁などなどもう大変なご馳走に一同大満足。

食事が一段落して次回 10 月 20 日の中学生体験プログラムのご相談となりました。

アイデアとしてクラフトに「孫の手」「水鉄砲」を、間伐には「枝打ち」もやらしてはどうか、それからトイレのことも

女性グループでは食事の段取りについて、メニュー、食材、食器、プロパンガスの手配等相当詰めた話し合いを行っていただき、10 月 19 日（前日）午後一時に集合、買い物と仕込みをしていただくことになりました。

秋風の中、葦葺き屋根の葺き替え

屋根におられた老練な安土の職人さんに伺いました。

職人の数は県内で 10 人に満たない、葦葺きは必ず 20 年に一度葺き替えが必要、それが大変でだんだん少なくなってきました。葺き替えた屋根は雨露で朽ちていきますが、その形がわび、さびをかもし出します。このことが日本の文化だと思っています。琵琶湖の浄化に役立つ葦は最近、紙にも利用されていますが、コスト面から「すだれ」などはほとんど中国産に替わってきています。懐かしいお話を聞くことが出来ました。(藤田信行さん宅)

季節の替わり目に

8 月末には黄金の実をいっぱい付けた稲穂が風にサラサラと音をたてていました。少しの間に風が季節の変わりを運んできました。9 月末には一面の田に刈り取り後の青芽が吹き出し、畑には冬野菜が生育しています。貨物列車は夏も秋も時間に正確にのどかに走っていきま。でも空の色は少しずつ変化、風には北の匂いも混じってきました。彼岸花は列を作っ。立ち上がっています。人々も動植物も共に次ぎの季節を予感しつつその準備に入りつつあります。

そして、そして政権は交代しました。かねてからいわれていた時代に沿った見直しがなかなかドラステックには出来ないから、ここで政権を「チェンジしてやってみる」という国民のメッセージなのでしょう。だから民主党は大変つらい、きつい船出なのですがいずれにしてもこれは通らなければならぬ、超えなければならぬ坂と壁ですから。

さてさて、あなたは何からどんなことを始めますか。替わり目こそ何事にも慎重に、特に体調管理にはご注意を、インフルエンザの脅威から身を守るため人ごみは避けたいものですが、家族、地域、の安心・安全ネットをしっかりとつないでいきたいですね。防御出来ることはそんなにありませんが注意事項はしっかりと守っていきたいものです。季節の替わり目はのどをやられますから「加湿機」でウエット仕様からドライ仕様への変更を緩衝する方法もありますが、ペットボトルに水を入れておいて 1 時間おきにガラガラペ。っとやれば随分効果はあるものと存じますがいかがでしょうか。どこかにお出かけの際に秋になってもペットボトルをお持ちいただき、どこでも手軽にうがいをするにすれば効果はてきめんと考えますが。

平成 21 年 10 月 20 日（火） 柏原中学校一年生：里山体験活動プログラム

場所：大野木「政所夢塾公園」

目的：里山再生、三世代交流基地としての公園づくりの作業に参加して竹きり、間伐、クラフトを通じて「ふるさとの動き」を学ぶ

参加者：中学生 40 名、引率 5 名、地元協力者 20 名、合計 65 名

班別	9.00 ～ 9.05	9.10～10.00	10.00 ～ 10.30	10.30～11.20	11.20～12.10	12.20～
1 班	あ い さ つ	竹きり 運搬	休憩・ 観察デ ッキ、 ターザ ンロー プ	間伐 枝打ち	炭文化と クラフト	昼 食
2 班		間伐 枝打ち		炭文化と クラフト	竹きり 運搬	
3 班		炭文化と クラフト		竹きり 運搬	間伐 枝打ち	

作業項目	竹きり、運搬	間伐	炭文化とクラフト
指導者	宮崎隆俊 水野義弘 小澤勝巳 前川大祐	吉田善次 小澤武久 樋口政信 伊藤 晋	北澤 武 中嶋良隆 清水清市 吉田 稔

休憩、昼食準備：女性陣 8 名

森田愛代、藤田光子、小澤八重子、山根幸子、水野スミコ
伊藤紀美子、吉田佳子、藤田洋子

ハシリテーター、記録：藤田 博、伊藤 晋

持参するもの：水筒、タオル、軍手、ヘルメット、メモ帳等

現地準備：のこぎり、小刀、きり、はさみ

中嶋さんからいいお話をいただきましたので紹介します

宇宙は百億ぐらいある。その百億の宇宙の一つが、わが地球の属する銀河系宇宙だという。銀河系宇宙の大きさはほぼ分かっている。楕円形で、光の速度で直径が十万年、厚さが一番厚いところで一万五千年かかる距離だという。

あまりのスケールの大きさに言葉もない。

その宇宙の中で地球だけに生命が宿されている。宇宙から見た地球はものすごく美しいと宇宙飛行士たちは口を揃える。

地球に住む生命体に宇宙は天敵を与えた。天敵がいなければあらゆる生命は増長し、調和を愛する宇宙の心に反するという事だろう。

ただ、限りない生命体の中で人間にだけ天敵がない。長い間の疑問だったが、ある時思い至った。人間の天敵は外ではなく心の中にいるのだと、人間を襲い、蝕む天敵、それは心の中に巣くう不平不満である。事あるごとに沸き起こってくる不平不満、愚痴こそ、人間を滅ぼす天敵である。

歌人、生方たつゑの母は、少女の頃、ともすれば不満顔をするたつゑに、「不満を持つ間は、人は幸せからはじき返されますのや」とよく言ったという。

人生を知り尽くした人の英知の言葉であろう。人間を損なう天敵の対極にあるもの、それが感謝である。心が感謝の思いに満ちあふれた時、あらゆる不平不満は一気に消え去る。感謝こそ人間という生命体を健やかに成長させる根幹である。

「恩」という字は「口」と「大」と「心」からなっている。「口」は環境、「大」は人が手足を伸ばしている姿である。何のおかげでこのように手足を伸ばしておられるのか、と思う心が「恩を知る」ということである。

安岡正篤（まさひろ）師の言がある。

「我々は天地の恩、人間の恩、道の恩、教えの恩など、あらゆる恩の中にあります。これに絶えず報いていくのが生活であります」

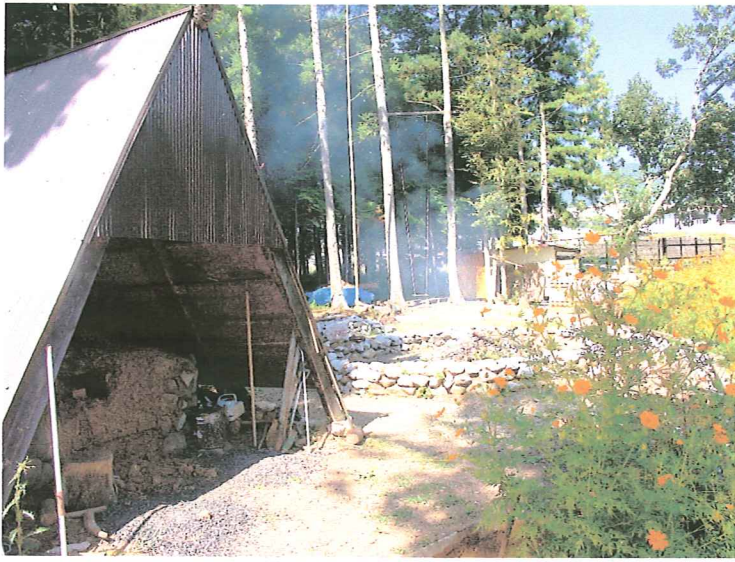
感謝報恩の人生を歩みたいものであります。「心にのこる教え」より

次回 10月20日（火）

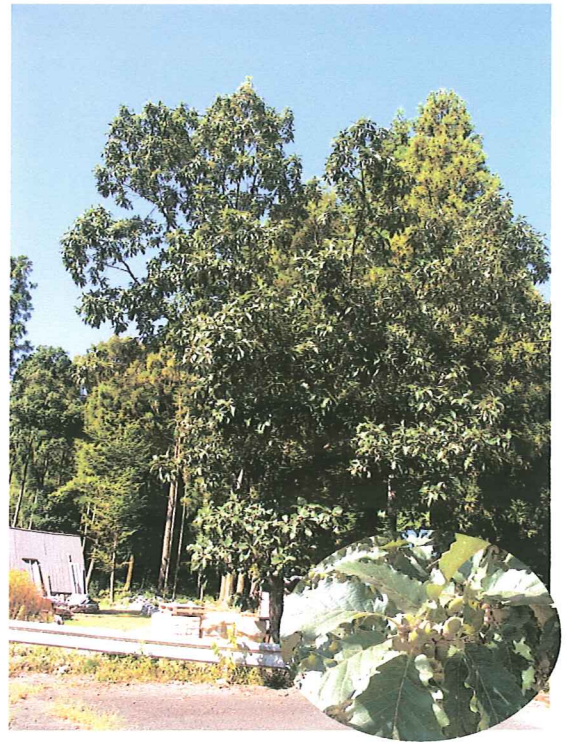
元気な中学生が大挙やってきます。

迎える体勢を整えてがんばりたいと思います。

3班に分かれての指導になります。各班の連携、全体調整、食事のこといろいろ大変とは存じますが、よろしくお願ひします。



平成二十一年九月二十日
夢塾公園グランドワーク



公園のシンボル 巨大ドングリの木



昨年植えた
ヤマモモ



いつも昼食には女性軍の心温まる手料理が出る
今日は仕事も少なかったが よばれていいのかな・・・



自生の山ウド



秋の取り入れ最中
参加者も少なく控えめの作業だった



期待の炭窯だが今いち調子が出ない

次回は十月二十日(火)は
柏原中学校一年生が里山体験に来る
今、段取りが話し合われた
炭切りの、捨の間・枝打ち
そし、ク、ラフト
料理は何にしよう！

